

四七

可材の性淳良なり仙平左衛門と地土事より通達者なり成
身預出由二月に免河と成り地土度より存方不馳合来と題
ふに新建より入移住年と云ふに各移居宅建網より院合
ゆ安より移住と云ふなり子書付と云ふに書付
一建と云ふ

子方と云ふ

仙平左衛門
西より移
住なり

留部

書組

留部八木村の性淳良なり仙平左衛門と地土事より通達者なり成

一建と云ふ

留部八木村

一仙平左衛門の性淳良なり仙平左衛門と地土事より通達者なり成
身預出由二月に免河と成り地土度より存方不馳合来と題
ふに新建より入移住年と云ふに各移居宅建網より院合
ゆ安より移住と云ふなり子書付と云ふに書付
一建と云ふ

前風為之狂掃。有解。除。並。南。下。觀。數。內。破。而。之。
 日。者。仕。愛。以。處。而。地。之。屬。數。地。之。古。者。其。派。事。數。仕。
 以。風。中。為。之。仕。服。手。其。公。而。何。何。以。何。何。之。也。其。如。以。
 中。上。而。為。之。仕。服。手。其。公。而。何。何。以。何。何。之。也。其。如。以。
 以。何。何。之。也。其。如。以。

年二

源
内

常々
心印
心印
心印

沼田郡八木村源三作年々御藏傳有山新嘉善

口
上
之
人

源田邦

八
村

[illegible]

近年は隆盛任家常病を患ひて居るに由りて
 向ふは教養の足るもの少くを病むるに由りて
 何れも病むに由りて一に病むに由りて余の病
 病むるに由りて余の病むるに由りて余の病むる
 何れも病むに由りて余の病むるに由りて余の病むる
 何れも病むに由りて余の病むるに由りて余の病むる

年々
 年々
 年々

近頃
 近頃
 近頃

年々

年々
 年々

近年は隆盛任家常病を患ひて居るに由りて
 向ふは教養の足るもの少くを病むるに由りて
 何れも病むに由りて余の病むるに由りて余の病むる

其村百姓源内并作平居宅下地有来り之通建替之儀
被願出、当二月御免許ニ相成候処、此度御鷹方ヲ駈合来候趣ニ
而ハ新建与相見、猶作平ニおゐてハ無願居宅建調之義、統合如
可敷ニ付、得斗被相約メ早急様子書付を以可被申出、此段
申達候、已上

沼田郡

午五月十九日

番組

八木村当分庄屋

正三郎殿

同 庄屋

忠左衛門殿

与頭中

沼田郡八木村百姓源内居宅建替仕候ニ付御歎口上書

沼田郡

口上書之覚

八木村

一私義居宅建替仕度段御願申上、御慈悲を以早々御赦免
被為成遣難有奉存、先祖之屋敷地江建替仕候処、下地有
来り之屋敷地ニ無之、屋敷替致候ハ、其訳可申出筈之処、如何
之義ニ候哉、甚以心得違之段被仰聞御尤ニ奉存候得共、
此ケ所先祖方之屋敷地ニ而墓所も有之候得共、五ケ年
前風雨ニ相損候ニ付解除置、当分親類内磯右衛門方へ
同居仕候処、此度下地之屋敷地へ古木取添建替仕候、
此儀申出不仕段奉恐入候、如何体被仰付候とも兎口
申上分無御座候得共、何卒此余御慈悲之程偏ニ奉願上候、
此段御約メニ付、口上書を以御歎奉申上候、以上

午五月

百姓

源内

当分庄屋

正三郎殿

同 庄屋

忠左衛門殿

与頭中

沼田郡八木村浮過作平小屋掛ケ仕候ニ付御歎口上書

沼田郡

口上之覚

八木村

一私儀貧窮者ニ御座候処、老母并妻近年病氣ニ御座
候而極困窮ニ落入、乍恐御未進も相重ミ居申候処、御憐憫
を以御借替御上納分相濟セ被下候得共、御返弁之業難相叶、

其外所々ニ借用銀御座候ニ付、無扨老母へ相談仕候処、
家財売払候而も借銀払済候ハ、安心可仕旨申聞候ニ付、
家屋敷地其外わすかに纔式畝計り之田地も売払、一応借用方
返弁仕候得共住家無御座候処、隣家組合中之御世話而
向イ代藪切り先年之家跡へ小屋駆致囉もろひ候義ニ御座候、
何角 当惑仕御願不申上候段奉恐入候、此余いか体
被仰付候とも兎口申上分無御座候得共、今耄人之老母
病氣ニ御座候ニ付、難洪仕甚歎ケ敷儀ニ奉存候間、
何卒御慈悲之程厚歎申上候、御約メ候ニ付此段
口上書を以御歎申上候、以上

浮過

午五月

作平

当分庄屋

正三郎殿

庄屋

忠左衛門殿

与頭中

沼田郡八木村 百姓源内 居宅建替之儀ニ付相約様子申上書付
浮過作平

覚

沼田郡

八木村

一当村百姓源内・浮過作平居宅建替之義ニ付御鷹方
御駆合ニ相成候趣ニ付、得斗相約メ委細書付を以様子
可申出旨被為仰付奉畏候、依而右兩人并隣家
組合之者迄得斗相約申候処、夫々別紙口上書之通り
歎出申候、私共ニおゐても不しらへニ相当り候段恐入
奉存候、尚口上書之通り相違無御座候間、何卒
御慈悲之御判断幾重ニも宣敷御歎奉申上候、
依而口上書面通り取次、此段厚奉願上候、以上

午五月

当分庄屋

正三郎

庄屋

忠左衛門

与頭

平左衛門

同

弥五郎

同

善右衛門

沼田郡

御番組衆中様